

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	池田 琴恵【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成19年度生】 (平成26年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論 文 題 目	学校におけるエンパワーメント評価モデルの生成 ー学校評価ツールの作成を通してー	<p>近年、主体的・自主的な学校改善の方法として、「学校評価」が教育政策上、各学校に求められている。しかし実態としては、行政からのトップダウンの作業として形骸化した学校評価が行われている状況もある。他方、コミュニティ心理学では、主体的・自主的な評価の取り組みを通して、組織のエンパワーメント等を目指す「エンパワーメント評価」の方法が提唱されてきた。そこで本論文は、エンパワーメント評価の一技法であるGTO(Getting to Outcome)法の学校評価版を、実践研究を通じて作成することで、学校が主体的に行う学校評価システムの方法とモデルを構築したものである。</p> <p>第1部の理論的検討では、まず、学校経営学・教育行政学・評価学・心理学の各領域における先行研究を踏まえて、現状の学校現場における学校評価の実態と、学校評価をめぐる課題が整理された。続いて、エンパワーメント評価とそれによる組織のエンパワーメント、エンパワーメント評価の実践システムについて、コミュニティ心理学における先行研究の整理と理論的検討、仮説モデルの提案が行われた。</p> <p>第2部では、学校評価GTO法の開発として、5つの研究協力校における同法の4年間の試行過程と、それを通じた学校評価GTOシステムの構築が実践研究として述べられた。学校評価GTOの試行版ワークシート等が、実践研究を通じて改良・作成され、ロジックモデルやプロセス評価・アウトカム評価などエンパワーメント評価の特長が学校評価にも効果的に活用できることが質的・量的に示された。</p> <p>第3部では、総合考察として、学校評価GTO法の有効性と課題、またその実践モデルの提案がなされた。同法の各ツールを用いることによって、教員や管理職が、各校独自の課題を踏まえて、教育活動の評価を主体的に行うことが促進されることが本論の貢献として総括され、さらなるシステムの改良や同法の普及にむけた課題などが、今後の課題とされた。</p>
審 査 委 員	(主査) 准教授 伊藤 亜矢子	
	教授 平岡 公一	
	教授 加賀美 常美代	
	准教授 青木 紀久代	
	教授 浜野 隆	